



概要

日時 2012年1月14日（土）～15日（日）

場所 パシフィコ横浜（会議センター）
（みなとみらい線「みなとみらい」駅下車、徒歩3分）

規模 海外ゲスト100人、2日間でのべ1万人
（インターネットを經由し、国内外へ中継あり）

世界会議の方向性

1. 総合性：脱原発をめぐって今必要な論点を包括的に取り扱う。
2. 説得力：「原発のない世界」が可能であることを、世界の事例と知見をもとに、説得力をもって示す。
3. 国際性：日本の原発論議を世界とつなぐ。世界史的視野に立ち、日本が世界の先例から学ぶと同時に、福島を踏まえた日本からのメッセージを世界に発信する。
4. 参加型・創造性・実践指向：参加者からのもちこみ企画や、国境をこえた参加者間の交流を重視する。革新的アイデア、国境をこえた新規プロジェクトを生み出す。
5. 福島と東北の視点：被災地からの参加を促し、福島の原発事故の被害の実相を世界に対して可視化する。会議の議論を震災復興に生かす。
6. 政策へのインパクト：政府が進めている原子力政策見直し等に対して、タイムリーで効果的なインパクトをもたらす。首長・自治体の役割も明らかにする。

プログラム

（2011年11月9日現在。今後変更の可能性あります）

I 全体会（1600人規模）

開会全体会（1月14日午後）

基調講演

福島から世界へのメッセージ

世界から日本へのメッセージ

閉会全体会（1月15日夕刻）

世界宣言、行動計画、脱原発大賞（仮）など、今後の行動に向けて

II セッション(分科会) (各600~1000人規模)

テーマ別セッション (以下10テーマ(仮))

1. 福島で何が起きたのか
2. 自然エネルギーでここまでできる
3. 日本の原子力政策の問題点
4. 原発は止められる
5. 日本のエネルギー政策をどう考えるか
6. 世界のヒバクシャから学ぶ
7. 福島における被ばくの実態と求められる対策
8. 放射能から子どもと暮らしを守る
9. 原発も核兵器もない世界へ
10. 東アジアの脱原発

特別セッション

1. 首長会議(仮)
2. 未来をつくる市民社会

III もちこみ企画

種別

1. イベント企画(100~150人規模、約30)
2. ブース・展示(約50)
3. 映像・ミニステージ(約10)
4. 子ども向けプログラム(約10)

重点テーマ

1. 子どもを守る
2. 自然エネルギーを普及する
3. 原発に頼らない地域づくり

現在公募中(要項:<http://npfree.jp/kikaku.html>) 締切11月24日(木) 必着

サポート制度

1. 福島を含む被災地からの企画
2. 原発立地および隣接市町村からの企画
3. 学生グループによる企画

■海外ゲスト

ミヒャエル・ザイラー(ドイツ) 元原子力安全委員会委員長
マイケル・シュナイダー(フランス) エネルギー・原子力政策専門家
アンドレアス・ニデッカー(スイス) 核戦争防止国際医師会議、放射線学者
キャスリン・サリバン(米国) 核問題教育家
モナ・マカムレ(ヨルダン) 人権活動弁護士
李憲錫(イ・ホンソク)(韓国) エネルギー正義行動
付濤(フ・タオ)(中国) 中国発展簡報
プラフル・ビドワイ(インド) ジャーナリスト、核問題専門家
ポール・サオケ(ケニア) 核戦争防止国際医師会議

ほか交渉中多数

- ・ 欧州議会議員（緑グループ）
- ・ 各国の首長、自治体関係者
- ・ デンマーク、カナダ（自然エネルギー）
- ・ チェルノブイリ（原発事故）
- ・ マーシャル諸島、タヒチ（核実験）
- ・ オーストラリア（ウラン採掘）
- ・ インドネシア（原発輸出）など

■企画

- ・ 「ふくしまの部屋」…被災者、避難者の生の声を集める部屋
- ・ 海外ゲストとの交流スペース
- ・ （準備中）ライブ、ミニステージ、アート展

■ 1月13日（金） 海外ゲスト、福島視察

成果物

I. 脱原発世界宣言

世界に原発と核の危険を訴え、原子力に頼らない社会を共に築くことを訴える宣言。福島の実態および福島が投げかけた問題を伝えるメッセージをもちつつ、世界の核被害者（グローバル・ヒバクシャ）の声を盛り込む。

II. 脱原発行動計画

原発のない社会を実現するために政府、自治体、企業と経済界、国際機関そして市民がとることのできる行動を具体的な方法、時期、指針とともに示す。主に日本を念頭に置くが、現在原発に依存している多くの国で活用できるものにする。

III. 会議から生み出されるアイデアとプロジェクト例

- ・ 会議の内容と成果をネット、DVD、書籍等を通して普及
- ・ 自然エネルギーのための日本やアジアからの留学促進
- ・ 日本や世界の自治体や企業がタイアップした新規プロジェクト創設
- ・ チェルノブイリをはじめとする世界中の核被害対策の福島への適用
- ・ 暮らしのなかでできること、市民活動を活発化するための課題など
- ・ 「脱原発大賞（仮）」も検討中

■主催：「脱原発世界会議」実行委員会

(構成団体)

ピースボート、環境エネルギー政策研究所、グリーン・アクション、原子力資料情報室、国際環境NGO FoE Japan、国際環境NGO グリーンピース・ジャパン

事務局連絡先：

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 3-13-1 B1

ピースボート内 「脱原発世界会議」事務局

Tel: 03-3363-7561 (担当：山元) Fax: 03-3363-7562

WEBサイト <http://npfree.jp/>

Twitter ID: DATSUGENPATSUtw

■協力

アースガーデン、国際協力NGOセンター(JANIC)、黒崎事務所、コミュニティファシリテーション研究所、東アジア環境情報発信所 (2011年11月9日現在)